

# I 教育の充実

## 4 教育環境づくり

### (1) 今日の教育ニーズへの対応 <<施策15>> 高校教育課、義務教育課、特別支援教育課

#### 総合計画の内容

##### <現状・課題>

- デジタル化の急速な進展、児童生徒・学生の興味・関心や進路希望等の多様化等に伴い、様々な教育ニーズに対応する必要があります。
- 国際化の進展に伴い外国人の子どもや帰国児童生徒が増加していることから、日本語指導、適応支援等個々の状況に応じた支援を推進する必要があります。

##### <施策の方向>

- 多様な教育ニーズに応じるため、県立高校の特色化を推進するとともに、中学生が適切な進路選択ができるよう県立高校における情報発信力の向上を図ります。
- プログラミング的思考力を育成するため、小・中・高等学校の発達段階に応じたプログラミング教育を推進します。また、幅広い分野で新たな価値を創出する資質・能力を子どもにバランスよく身に付けることができるようSTEAM教育\*等の教科等横断的な学習を推進します。  
(※ STEAM教育:STEAMは、科学(Science)技術(Technology)工学(Engineering)芸術・文化・倫理等(Arts)数学(Mathematics)の頭文字。各教科での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な教育。)
- 外国人の子ども等日本語指導を必要とする子どもへの対応として、個に応じた指導を実施するための学校の指導体制や市町村の体制づくりを支援する取組を推進します。

#### 令和4年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 生徒の多様な興味・関心、能力・適性、進路希望などに応じた教育を展開するための積極的な改革を推進するとともに、入学者選抜制度の改善・充実を図ります。
- ◇ 県立高等学校等が各地域における人材育成の核として役割を果たし続けることができるよう、地域や時代のニーズに対応した学科・コースの構成等について研究します。
- ◇ 令和2年度から小学校においてプログラミング教育が導入されたこと、また、高等学校においては令和4年度入学生から「情報Ⅰ」が共通必修科目となることを踏まえ、小・中・高等学校を通じた系統的な情報活用能力の育成に向けたプログラミング教育の推進と教員の指導力向上を図ります。
- ◇ 日本語指導が必要な児童生徒の増加に対応するため、日本語指導について専門性の高い教員を育成するとともに、市町村教育委員会や学校の受入体制の整備を支援します。

**令和4年度 主な取組・事業**

取組・事業名	概 要
県立高校活性化の推進	プロジェクトチームにおいて県立高等学校の活性化を総合的かつ戦略的に推進します。
学科・コースの充実	県立高等学校に対する調査やヒアリング等により、特色ある学科・コースの現状と課題を把握し、地域や学校・生徒の実態等に応じて、学科・コースの充実を図るとともに、普通科の特色化を推進します。
入学者選抜制度及び転編入学制度の改善	受検生の多様な個性を様々な角度から評価するため、推薦入学制度や特色化選抜制度、各校の特色に応じた学校独自の面接、作文又は実技を行う個性重視の特別試験などを実施します。
情報活用能力向上事業の実施	小・中・高等学校を通じた系統的な情報活用能力の向上に向けて、小・中学校においては、カリキュラムマネジメントに基づいた組織的なプログラミング教育の実践的な研究の支援を行い、成果や実践事例を普及します。 高等学校においては、これまでの事業成果であるプログラミングの学習モデルを実践するとともに、情報担当教員の研修の充実を図ります。
プログラミング実習環境整備事業の実施	「情報Ⅰ」を履修する全ての県立高等学校において、プログラミングの効果的な実習環境を整備します。
帰国・外国人児童生徒等への日本語指導体制整備事業の実施 <重点事業11>	日本語指導が必要な児童生徒が在籍している学校の教員を対象に、日本語指導の指導力向上を図る専門研修を実施します。 また、日本語指導が必要な児童生徒に対する市町村教育委員会や学校における受入体制整備の支援に取り組みます。

**指 標**

指 標	指 標 の 概 要	現 状 値	目 標 値
プログラミングによる課題解決力の向上	プログラミング学習を課題解決等に应用する意欲の高い生徒の割合 (県立高等学校)	現状値なし (R3年度)	15% (毎年度)